

平成 28 年度 わくわく生き物講座 研修報告

◆ 飼育・栽培活動の意義について

- ・ 栽培、飼育活動を通して、命と向き合い、実感をもって生物を愛護しようとする態度、生命を尊重しようとする態度を育てる。
- ・ 学年があがるごとに飼育、栽培の経験が少なくなっていく現状がある。すると、植物の命や生き方などを実感し、自分にとってかけがえのないものになっていかない。栽培、飼育活動を積極的に行い、実感のある学習、感動のある学習を展開することが大切だと考える。

◆ 立体種図鑑をつくる

始めに花と種当てクイズを行った。花の写真から 8 つある種がどの花のものであるのかをグループで相談して解答していただいた。その後、種を見比べながら立体種図鑑を作成した。発泡スチロールのボードに木工用ボンドで種を貼り付け弁当の容器に入れるというシンプルな作りだが、花の写真や名前をつけたり、コレクションという意味づけをしたりすることで、ちょっと素敵な自分の宝物ボックスのようになる。



種図鑑にした植物の種を、スポンジを使った水耕の方法で同日に植えた状態も紹介した。植物によって発芽までの時間が違うことや子葉の形や機能が違うことに気づくことができる機会になる。

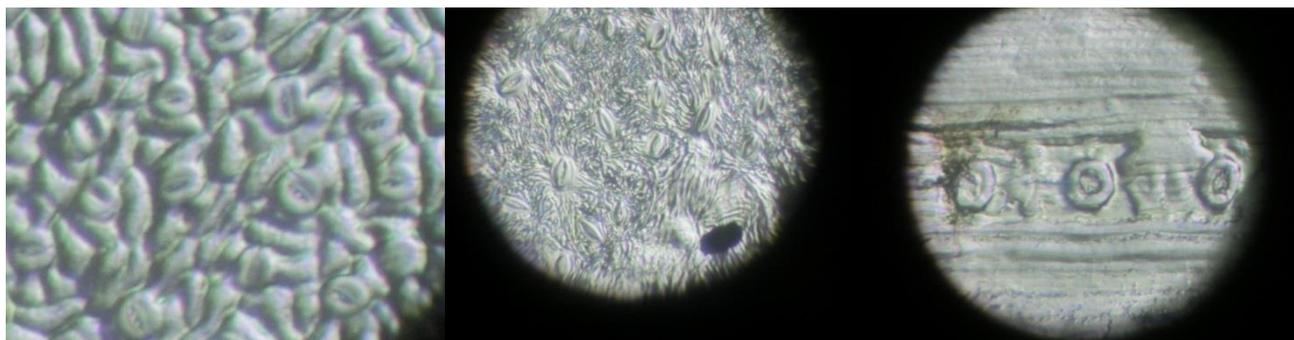
◆ シマフムラサキツユクサの気孔の観察、マニキュアを使った気孔の観察

簡単に気孔の観察ができる植物としてシマフムラサキツユクサを紹介し、実際に気孔を観察した。観察の方法は、スライドガラスの上に葉の裏を上にして置くだけである。参加された先生方は、その簡単さとそれ以上にその美しさに感動の声をあげていた。シマフムラサキツユクサは苗にして、参加された先生方に持ち帰ってもらった。

マニキュアによる気孔の観察は、葉の表皮を剥がすことの難しい植物でも気孔の観察が可能になるメリットがある。身の回りのほとんどの植物に応用できる。ただし、形を写し取るものであるため、気孔そのものではないことをイメージできるのかということではデメリットとなる。



【参考】



カエデ

ソメイヨシノ（サクラ）

マツ

◆ゴーヤの苗やメダカの卵の配布、モンシロチョウの卵の採集

- ・ ゴーヤの苗の配布
- ・ 理セのメダカ池にあるメダカの卵はいつきていただいても配布可能なことを確認した。
- ・ 理セの畑のキャベツやブロッコリーからモンシロチョウの卵の採集
※学習の時期に合わせていつでも採集にきていただいてもよいことを確認した。



◆参加された先生方のアンケートから（抜粋）

- ・ 子ども達に実感を伴った理解をさせるための手立てが大変役に立った。用意も簡単にできるものばかりだったので、ぜひ実践したい。
- ・ 自分の知らないことがたくさんあり、大変ためになりました。今回のわたし達の大きな驚きを子ども達にも感じさせたいと思わせる講座でした。シマフムラサキツユクサをたくさん増やしてみたいと思います。
- ・ 気孔がはっきり見られてわくわくしました。とても美しいと思いました。種図鑑づくり、いろいろな種の発芽、ためになりました。今後に生かしていきたいです。
- ・ 教科書や写真などのデータで見ると見るよりも実物を見ることで得られる学びは大きい。感動も伴うから印象に残るし、身近に感じるのだと改めて気づかされました。種図鑑は、いろんなアレンジができそう、役立たせていただきます。

◆おわりに

本物のさまざまな種類の種が目の前にあり、実際に手にとってその形や手触り、重さを具体的に感じる。それらの種を自分好みにコレクションしてみる。シマフムラサキツユクサの気孔を実際に顕微鏡で観察する。緑や紫の色の中に、唇のような形の気孔がきれいに並んでいる。メダカの卵に命を感じる。先生方の感動体験が子どもへ大きな影響を与える。そのようなことを改めて感じた講座になりました。

（文責：山形市総合学習センター 馬場 賢）